

平成21年度 学術情報リテラシー教育担当者研修
大阪会場（10.21）・東京会場（11.18）

コンサルテーションとして攻める 学術情報リテラシー教育

（財）大学コンソーシアム京都（同志社大学所属）
同志社大学嘱託講師・「学術情報利用教育論」担当

井 上 真 琴



本日の内容

I. 同志社大学図書館の情報リテラシー教育紹介

II. 背景となる教育・学習環境の変化

III. 情報リテラシー教育の再検討と改善策

-1) 運営方法の工夫

-2) 教学との連携

-3) プログラム内容



学術情報リテラシーを教える難しさ

◎学術情報リテラシー

1. 「学術情報」を使うことに焦点
2. 情報の「学術的な」使い方に焦点
3. 学術コミュニティでの立ち居振る舞い

※方法が使うべき資料を決め、資料がとるべき方法を決める

※レファレンス業務でダイヤモンドではなくニーズを分析する

- ▶ 新聞の典拠のない記事は学術情報か？
- ▶ ウィキペディアの記述は信頼できる？

全国大学での実施状況

◎情報リテラシー教育の有無 73.4%あり

1. 正課授業 : ※教員と図書館員の関わり方
 - 1) 「科目関連型」:一部に図書館が協力
 - 2) 「科目統合型」:全部に図書館が協力
 - 3) 「独立型」:“情報リテラシー”に特化した科目に協力
2. 課外講習 : 図書館実施の情報リテラシー教育
 - 1) 「図書館オリエンテーション」
 - 2) 「データベース利用教育」
 - 3) 「教育支援・レポート作成支援」

参照:『今後の「大学像」の在り方に関する調査研究(図書館) 報告書 :
教育と情報の基盤としての図書館』(筑波大学, 2007.3)
<http://www.kc.tsukuba.ac.jp/div-comm/pdf/future-library.pdf> (参照2009-10-7)

▶ Ⅰ. 同志社大学図書館の情報リテラシー教育紹介

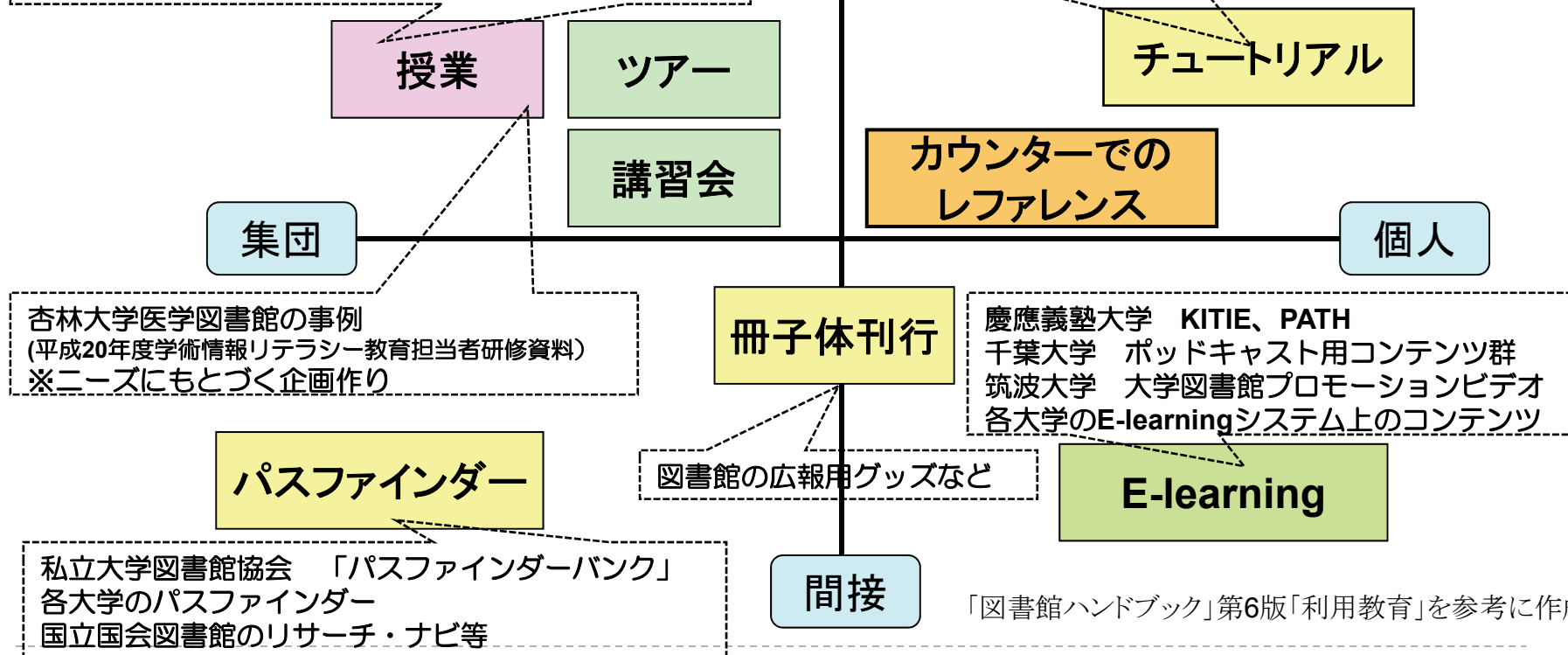
学術情報リテラシー教育のいろいろ

■ 現在の大学における情報リテラシー: 代表的な実践例

平成21年度大学図書館職員短期研修テキストより引用

京都大学 全学共通科目「情報探索入門」
東北大学 全学教育科目「大学生のための情報検索術」
明治大学 特色GPの「図書館活用法」

お茶の水女子大学 現代GPとの連携
東京女子大学 学生支援GP「滞在型図書館」
大阪大学 ラーニング・コモنزのTAの支援
名古屋大学 ラーニング・コモنزのライティングセンター（予定）



Ⅰ. 同志社大学図書館の情報リテラシー教育紹介

プログラム体系と内容の“見える化”

◎「同志社大学総合情報センター報」32号で特集

“図書館の利用講習会 **情報探索の技** に参加しよう！”

- ▶ P.1-3 : プログラムの基本的な考え方
- ▶ P.4-5 : 情報探索の流れと講習会プログラム
 - ※起点として今後改訂を重ねる予定 **「つねに普請中！」**
 - ※2009年度は「キーワード検索がわかる」等を追加

▶ **I. 同志社大学図書館の情報リテラシー教育紹介**

同志社大学図書館でのこれまでの経緯

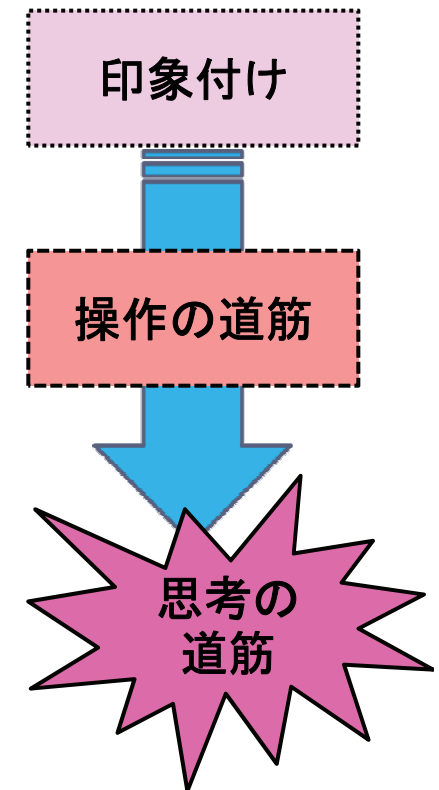
同志社大学教育開発センター・2007/12/3 教育効果向上部会メモ

実施年代	実施プログラム	対象者	評価
2000年頃 まで	新入生向けガイダンス	新入生 (両校地)	・京田辺と今出川(夜間主)の新入生に開催。
2001年頃 から	新入生向けガイダンス + 各種データベース講習会	全学生	・DBベンダーからの講師派遣。 個別データベースから総合的な探索法の支援が課題となる。
2006年度	初年次教育との連携を意識 情報探索技術の体系化 入門編:「役立つ図書館活用術」 初級編:「雑誌記事・論文の探し方」 中級編:「レポート・テーマ探索の術」 上級編:レファレンスサービスで対応	全学生	・体系化してスキルを俯瞰 ・外部委託可能なプログラムのプロトタイプ作成
2007年度	トライアルの実施 プログラムの調整	全学生	・基本プログラムの試行

Ⅰ. 同志社大学図書館の情報リテラシー教育紹介

講習会プログラム「情報探索の技」の体系

	企画・構成 仕様確定	講師
入門・初級(4コース) 役立つ図書館活用術	図書館スタッフ (初年次教育コースと連動)	委託
初級編(4コース) 30分でわかる	図書館スタッフ	図書館スタッフ
初級編 読んでみよう!	図書館スタッフ	図書館スタッフ
中級編(3コース) 90分でバッチリ	図書館スタッフ	図書館スタッフ
中級編(5コース) プロが教える	委託	委託



I. 同志社大学図書館の情報リテラシー教育紹介

教育・学習環境の変化

◎近年の大学改革の焦点(教育GPなど)

初年次教育／入学事前教育／PBL教育などの導入

事実中心学習に加え、問題中心学習へ
知識の伝授に加え、知識の生産・創造へ

図書館の存在感を示すチャンス到来

『今後の「大学像」の在り方に関する調査研究(図書館) 報告書：
教育と情報の基盤としての図書館』(筑波大学, 2007.3)
<http://www.kc.tsukuba.ac.jp/div-comm/pdf/future-library.pdf> (参照2009-10-7)

『学士課程教育の構築について(答申)』(中央教育審議会, 2008.12)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm (参照2009-10-6)

『IDE 現代の高等教育』(IDE大学協会, 2009.5)における
「特集:学習環境としての大学図書館」

II. 背景となる教育・学習環境の変化

図書館の喫緊の課題

◎教育との結びつきの希薄さ

- ▶ 教育手法の問題／情報リテラシーを備えるべき、主体的な問題解決型の学習がない。
- ▶ 図書館がどのように、学生の学習成果の実現に寄与できるのか。

文科省ヒアリングでの永田治樹先生のご指摘(2005.2.15)

「Ⅱ. 学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について」(科学技術・学術審議会 2006.3)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015/011.htm

※教育理論・学習理論を知る必要あり(How do students learn?)。

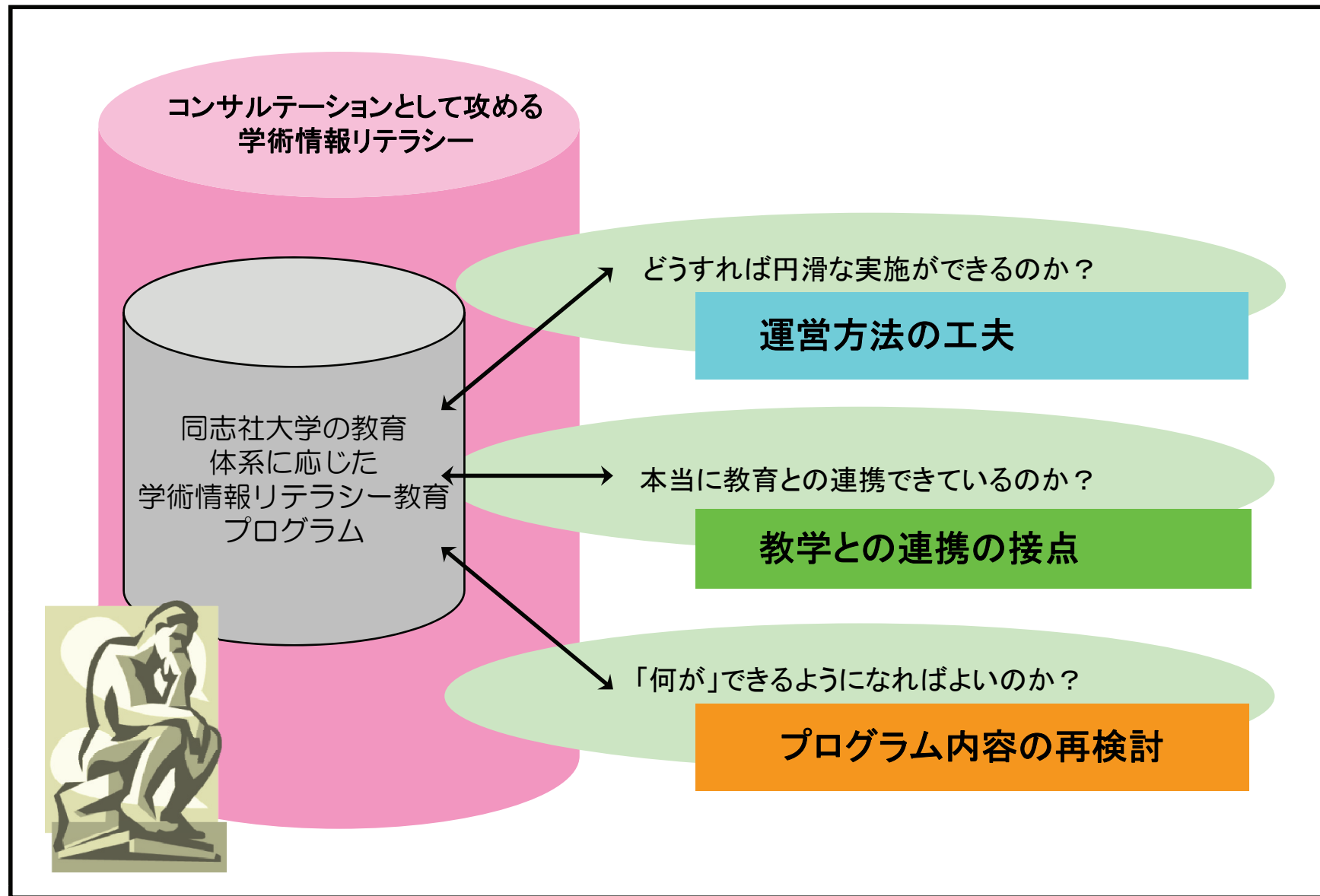
※「学びの身体技法」獲得の支援(Learn "how to learn")。

▶ II. 背景となる教育・学習環境の変化

問題点の洗い出し

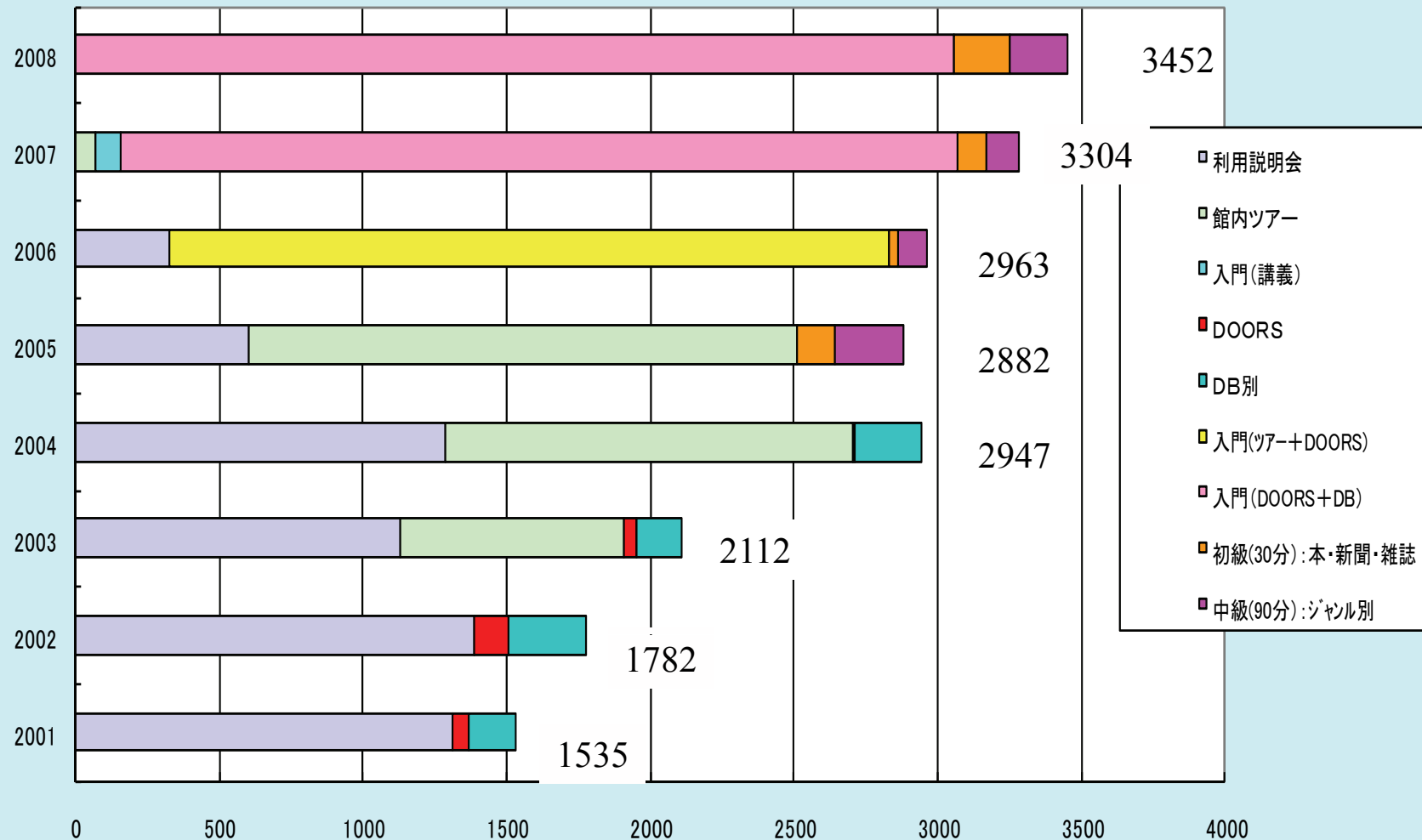
- ▶ 物理的な人員不足
 - 外部委託スタッフを併用した実施のプロトタイプ
- ▶ 図書館スキル+α(外部研究機関スキルの取り込み)
 - 日本能率協会、政府資料等普及調査会、検索エンジンカンパニーとのプログラムの協同検討、実施
- ▶ 教員の個別オーダーへの対応能力不足
 - 汎用的なプログラム内容でユニット化(例題変更は可能)
- ▶ プログラム内容の判断材料提示
 - プログラムの体系化(スキル要件との関連)して、プログラム群を俯瞰できるものを作成

III. 情報リテラシー教育の再検討と改善策



III. 情報リテラシー教育の再検討と改善策

図書館主催講習会 参加者数 推移 (京田辺)



2009年度 春学期の各講習会参加者数

今出川キャンパス

	4月	5月	6月	7月	合計
入門	280	200	80		560
図書館利用+DB(ゼミ単位)	91	40	68		199
初級(図書)		1	8		9
初級(雑誌記事)		1	8		9
初級(新聞記事)			6		6
初級(百科事典)			4		4
中級(洋文献へのアプローチ)			10		10
中級(卒論テーマ探索の術)				26	26
中級(政策・統計・経営資料)				30	30
中級(ウェブ情報の効果的活用法)				21	21
中級(キーワード検索)				30	30
中級(政府資料)				29	29
中級(外国語文献/FirstSearch)			20		20
合計	371	242	204	136	953

京田辺キャンパス

	4月	5月	6月	7月	合計
入門	1614	1157	102		2873
初級(図書)		5			5
初級(雑誌論文)		37	6		43
初級(新聞記事)		11	6		17
初級(百科辞典)		15			15
初級(裁判資料)		60	4		64
初級(理系資料)		7	7		14
初級(文系・商)	84	189	49		322
初級(理系・生命)	18	9	17	8	52
中級(科学技術文献)			21		21
中級(判例の探し方)			42		42
中級(レポートテーマ探索の術)			20		20
中級(政策・統計・経営資料)				14	14
中級(ウェブ情報の効果的活用法)				15	15
中級(外国語文献)			15		15
中級(キーワード検索)				19	19
中級(政府資料)				14	14
合計	1716	1490	289	70	3565

Ⅲ. 情報リテラシー教育の再検討と改善策 - 1) 運営方法の工夫

教員との対話で明らかになってくること

◎同志社大学教育開発センター(教育効果向上部会)

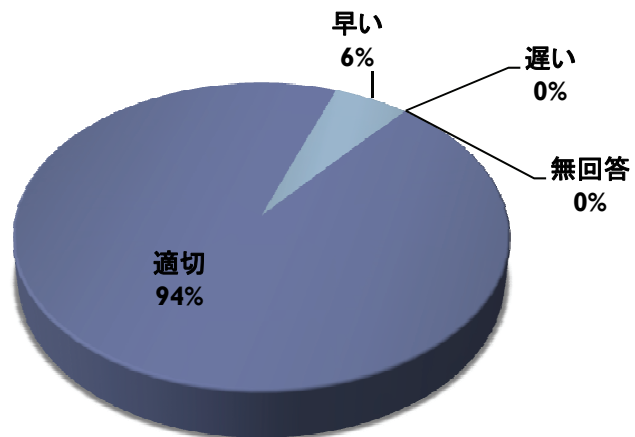
- ▶ 1年次図書館ガイダンス等の開催「量」は認知されている。
しかし、3年次以降の教育課程に効力なし。
 - プログラム内容の質の向上
 - 学部カリキュラムの編成に問題ありと教員が自認
- ▶ 講習会案内は2-3月、科目シラバスは12月に記述。
有意義な組み込みができない。
 - リテラシー教育プログラム体系の提示
 - コンサルテーションの実施
 - 2010年度から政策学部・文化情報学部の全クラスに導入検討中
(カリキュラム担当者が動く)

2009年度 講習会アンケート集計（今出川図書館）

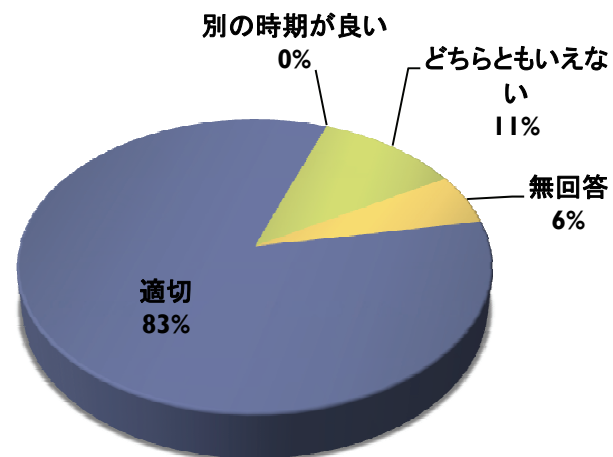
情報探索の技「入門」役立つ図書館活用術 アンケート（教員用）

★講習会の設定・案内についてお尋ねします

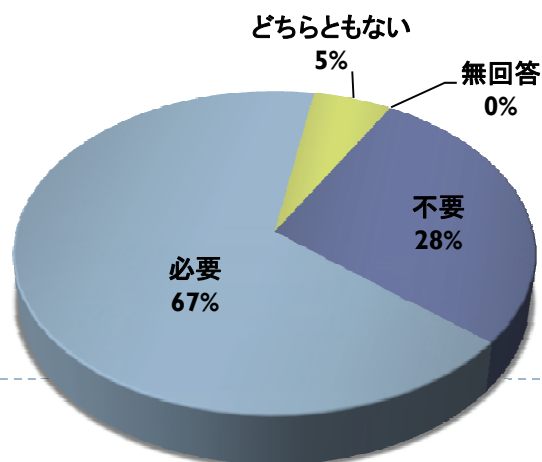
1. 講習会申込のご案内時期はいかがでしたか
（3月上旬にご案内）



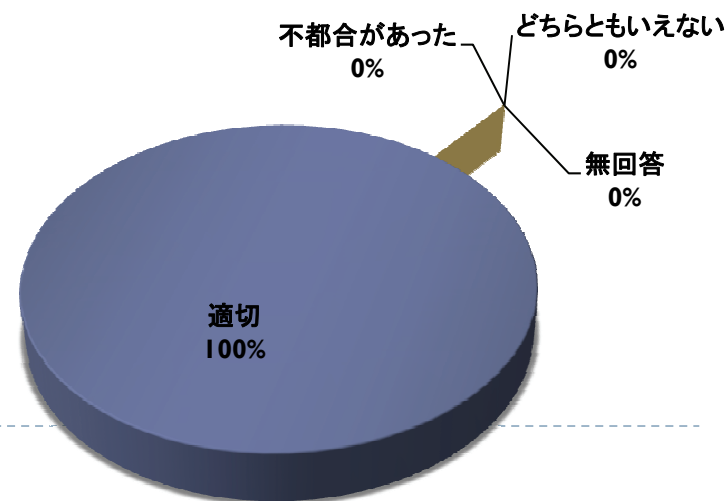
2. 講習会の開催時期はいかがでしたか



3. 講習会を受講するために、
講義計画との調整が必要でしたか



4. 図書館への申込みや日時確定のご連絡はいかがでしたか

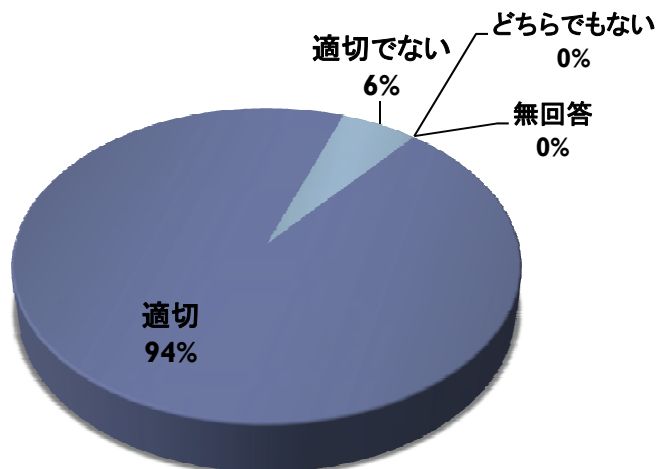


2009年度 講習会アンケート集計（今出川図書館）

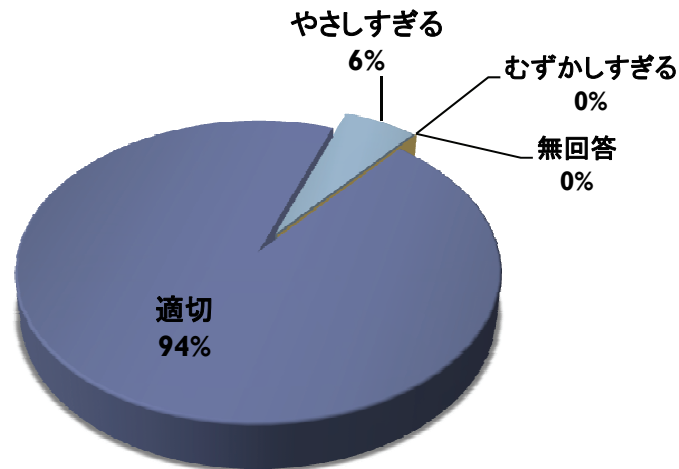
情報探索の技「入門」役立つ図書館活用術 アンケート（教員用）

★講習会の内容構成についてお尋ねします

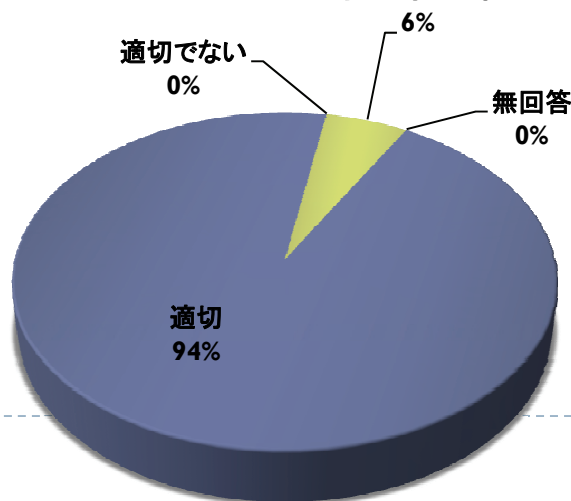
1. 時間配分は適切でしたか
（説明＋実習50分、館内ツアー30分）



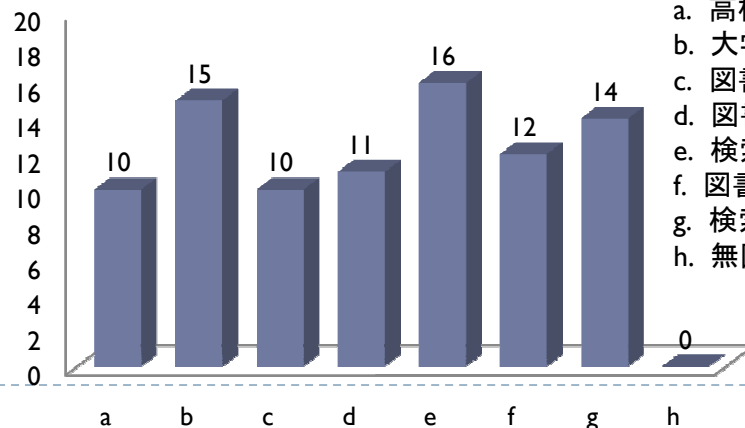
2. 難易度は適切でしたか



3. 講習会の説明内容は適切でしたか
どちらともいえない



4. 本年度の図書館講習会（「入門」）で取り上げた内容のうち、講習会の内容として今後も希望される項目をお選びください（複数回答可）



- a. 高校と大学での「学習」の違い
- b. 大学図書館の機能
- c. 図書館の利用方法案内
- d. 図書館での配置ルール
- e. 検索実習 (DOORS)
- f. 図書と雑誌の違い
- g. 検索実習 (CiNii)
- h. 無回答

カウンターでの利用コンサルテーション

ニートについて調べることになったら？

チャンネルは多数ある・・・しかし・・・



レファレンスで掘り起こすニーズ

- ◎レファレンス能力が弱いと情報リテラシー教育力も弱い。
- ◎インタビューでリテラシー教育上のニーズ分析。
- ◎資料や情報を探すより、テーマを見つける方が先。
(問題解決／問題発見)

- ▶ 編集物への理解不足
- ▶ 事前調査なしの安易なテーマ設定
- ▶ ウェブ検索上の問題
- ▶ よい情報源からはいる

Who's teaching the Hidden Curriculum?

▶ **Ⅲ. 情報リテラシー教育の再検討と改善策 ー 3) プログラム内容**

焦点をどこにおくか？

スキルの種別	印刷体資料	電子化資料 (データベース/フリーサイト)
1.情報源を知る (何があるのか)	<ul style="list-style-type: none"> 『日本の参考図書』等のガイドブック 各種主題別紹介資料 書誌・目録 	<ul style="list-style-type: none"> OPACの存在 ポータル参照 パスファインダー参照
2.情報源の使い方を知る (どう使うのか)	<ul style="list-style-type: none"> 凡例読解 編集方針/編集形態 	<ul style="list-style-type: none"> 検索方法/検索スキル インデクシング方法 各種演算子
3.総合化した情報源利用 (なぜ使うのか、どう組み合わせるのか)	<p>調べ方の「考え方」：メタ思考 ↑ (行為のなかの省察)</p>	

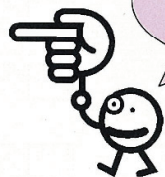
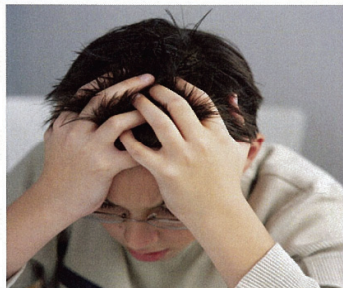
学術情報リテラシーへの道



フロが教える

情報探索の技 **中級**

レポートテーマ探索の術



悩んでいるヒト、
講習会
に集まれ!

資料を探す方法や 考え方の道筋を **伝授!**

日時: **11月12日(月)3・4講時** 1回90分です

会場: ラーネッド記念図書館 1階 第二読書室 (京田辺校地)

講師: (株)紀伊国屋書店 ライブラリーサービス部

定員: 各40名(申込順) 対象: 本学学生・教職員

お申込み・お問い合わせ: 両校地図書館カウンターへ

同志社大学総合情報センター・情報サービス課
TEL:0774-65-7240 FAX:0774-65-7249
E-Mail: jt-servi@mail.doshisha.ac.jp

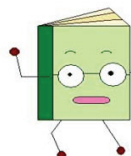
フロが教える

情報探索の技

秘
伝

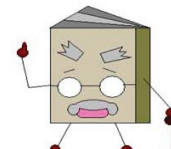
卒論テーマ 探索の術

資料を探す方法・考え方の道筋を伝授!



「卒論のテーマ、どうしよう・・・?」

論文を書くには、独自の論点を導き出すことが大切です。
それにはまず、背景や今までの研究成果を調べ上げ、知識を
得ておく必要があります。
基本となる情報を読み込み、そこからテーマを固めていく
プロセスを、情報探索のプロがレクチャーします!



場所: 同志社大学 今出川校地 寧静館・地下3番教室

日時: 11月17日(金) 5講時 16:45~18:15

講師: (株)紀伊国屋書店 ライブラリーサービス部

定員: 50名(先着順)

対象: 本学教職員・学生

申込みは、両校地図書館カウンターまで!

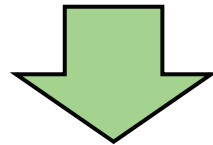
お問合せ先: 同志社大学総合情報センター・情報サービス課
TEL:075-251-3980 FAX:075-251-3058
E-Mail: ji-servi@mail.doshisha.ac.jp

名詞で考えるな、動詞で考えよ

米国MITの建築教育：椅子の設計

例) 椅子の設計

「椅子」とは何かではなく、「すわる」とはどういうことかを検討



「情報源」というモノで考えるのではなく、特定の文脈のなかで「情報を使う行為」とは何かを考える。キーワード:「なぜ」「どのように」



今後の課題

1. スキルのみでなく、考え方を学ぶプログラム内容へ
 - ▶ 情報の検索にとどまらず、情報を読むための検索に重点。
 - ▶ 情報に対して、「行為しながら考える」体験と習慣化の支援。
2. 図書館活用を組み込んだ授業改善(FD活動)の提案
 - ▶ 図書館の役割を理解し教育に組み込んでくれる教員づくり。
3. 企画・運営の継続性を担保する組織体制
 - ▶ 外部委託の工夫とコントロールをどうするか。
 - ▶ 分析と企画ができる職員づくりをどうするか。

▶ **おわりに**